

位置図



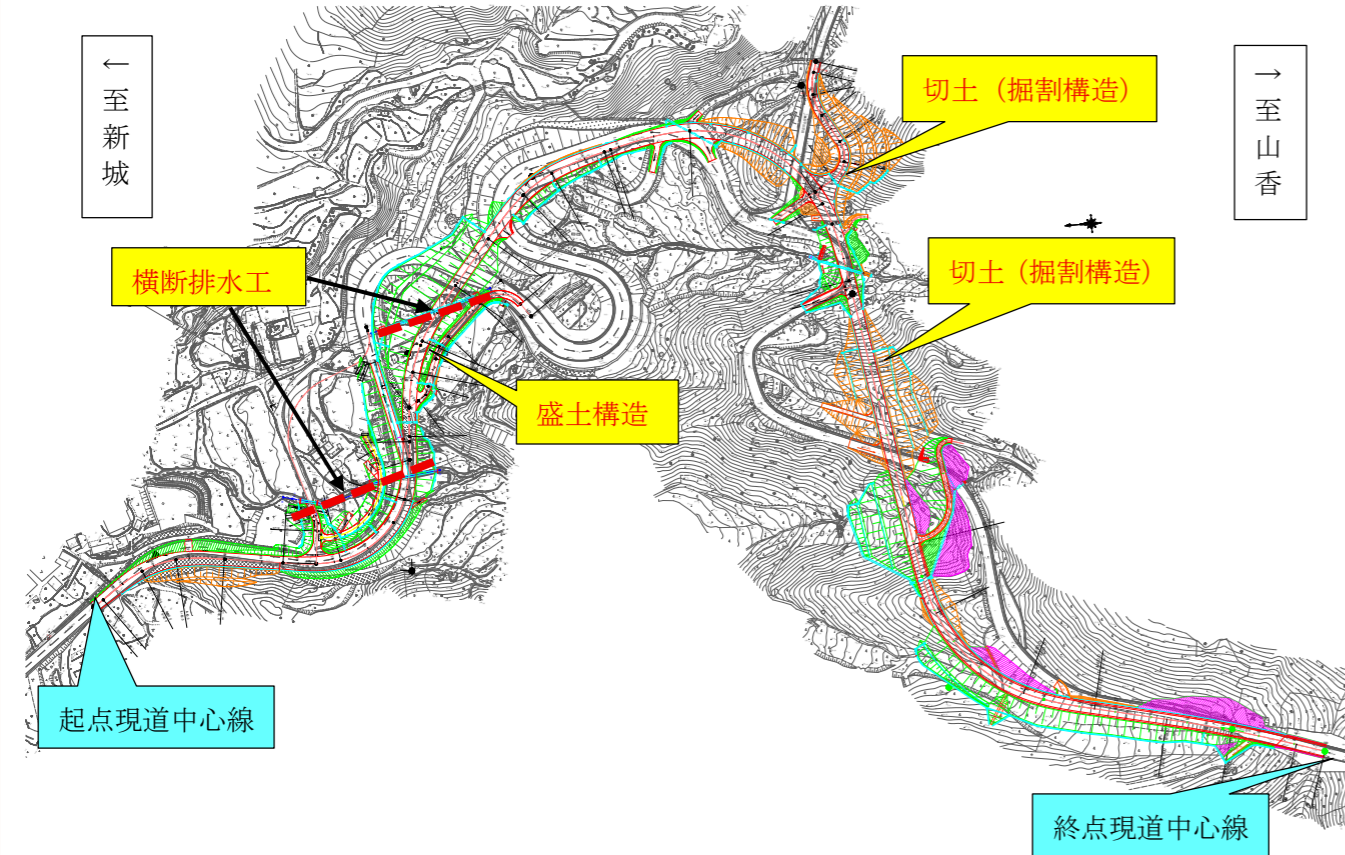
現地条件・課題(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- 現県道と新設道路が交差及び並行する影響が及ぶ⇒現道交通の確保(迂回路、切替)
- 起点・終点、現道道路中心線と法線の一致
- 土工計画(切土・盛土)は段階施工となるので施工順序の立案
- 現道は落石があり、切土区間は主に掘割掘削で現況交通と交差及び並行する箇所があり
- 現排水路区間の盛土
- その他支障物件:家屋・倉庫等、電柱(九電、NTT、CATV)

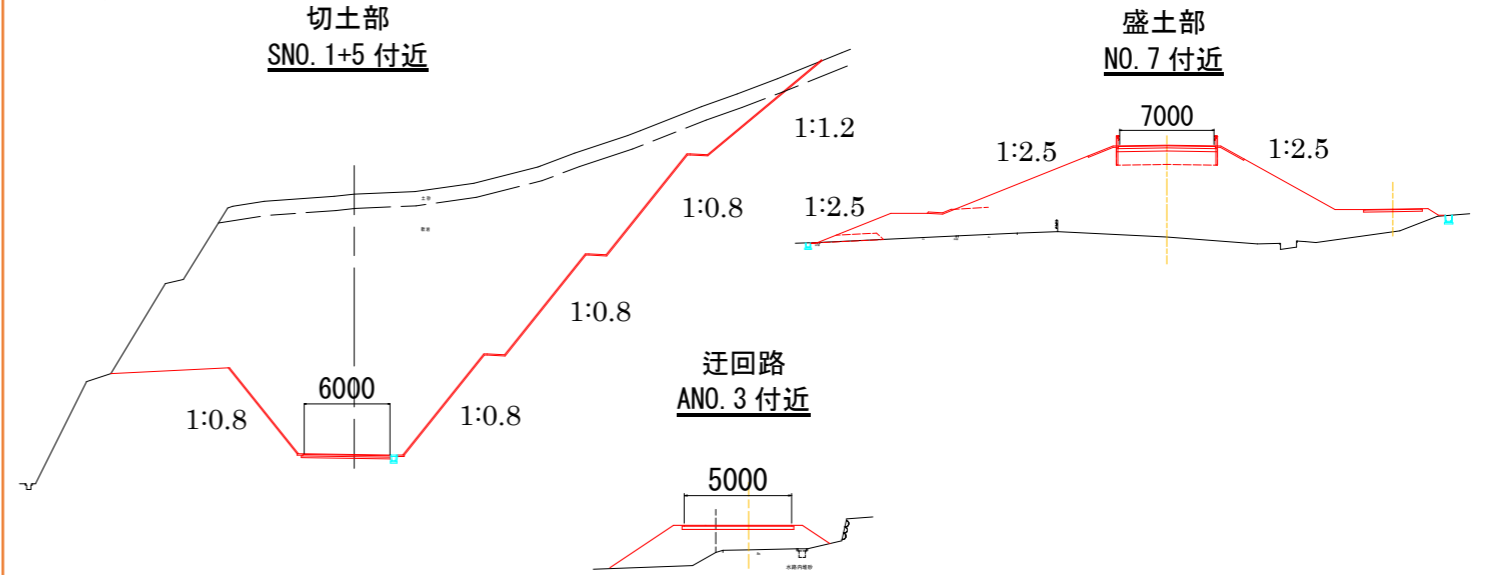
設計条件

- 道路区分:第3種第4級 設計速度:V=30km/h
- 計画幅員:W=7.0m(車道 2.75m, 路肩 0.75m) 歩道なし
- 取付道路・迂回路:現道交通切回し供用する
- 仮設工:迂回路は盛土となるが、一部大型土のうを予定

平面図



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

- :施工者質問
- :設計者(または発注者)回答

【現道切回し計画に関して】

- 全体が土工事となり、現道と新道が交差する箇所があり、交通の切回しが必要となり複雑な交通誘導となるのではないかと。
- 土工事は迂回路や取付道路を設けて段階施工となるので現道交通の切り替え等に関して、留意事項を段階施工図に明示しておく。

- 土工バランス(残土処理等)は問題ないかと。また、盛土に使用する切土箇所の段階的な掘削・運搬計画が必要ではないかと。
- 土工バランスについては残土が発生するため残土処理が必要。また、段階施工図や切土箇所の施工計画には留意事項を明示しておく。
(以下、留意事項)
 - ・山切は特に雨水による法面崩落の危険性があるため排水対策を設けること
 - ・土工事主体となるので施工は梅雨時期を避けること
 - ・現道(県道・市道)沿いは仮設防護工を設け、法面箇所崩壊に備えること

【その他確認事項】

- 工事で支障となる現道の電柱移設について実施しているのか。
- 今後、市役所(CATV)、NTT 等と事前協議を実施する。
- 現道切り回しについて地元関係者等と協議しているのか。
- 市役所、警察、地元関係者等と協議を実施している。
- 県道の切土区間に隣接するは出入り運搬経路して現道(林道)を使用について確認はとっているのか。
- 今後、関係機関(市役所・林業関係者)と協議を実施する。